

# VLED 第3回利活用・普及委員会

## 議事録

1. 日 時 平成28年2月2日(火) 13:30~15:30
2. 場 所 三菱総合研究所 大会議室
3. 出席者(敬称略)
  - 主査：中村伊知哉(慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授)
  - 副主査：村上文洋(株式会社三菱総合研究所)
  - 委員：大向一輝(国立情報学研究所准教授)、川島宏一(筑波大学大学院システム情報工学研究科教授)、小林厳生(有限会社スコレックス)、福野泰介(株式会社 jig.jp 代表取締役社長)
  - 社員：KDDI、日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本電信電話、日本マイクロソフト、日立製作所、三菱総合研究所(事務局)
  - オブザーバー：総務省、内閣官房IT総合戦略室、国土交通省、気象庁、農林水産省、国立国会図書館、ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム(ASPIC)
  - 自治体会員：神奈川県、静岡市、水戸市、茂原市
4. 資料
  - 資料1. 会員からの情報提供
    - 資料1-1. 静岡市資料
    - 資料1-2. 水戸市資料
    - 資料1-3. 株式会社リブセンス資料
    - 資料1-4. 一般社団法人 全国地質調査業協会連合会資料
    - 資料1-5. ESRI ジャパン株式会社資料
    - 資料1-6. 一般社団法人オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン資料
  - 資料2. 勝手表彰について
5. 議題
  - (1) 参加者からの情報提供
    - 1) 静岡市
    - 2) 水戸市
    - 3) 株式会社リブセンス
    - 4) 一般社団法人全国地質調査業協会連合会
    - 5) ESRI ジャパン株式会社
    - 6) 一般社団法人オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン
  - (2) 勝手表彰について
  - (3) その他(次回以降の開催日程について)

## 6. 議事録

### (1) 参加者からの情報提供

#### 1. 静岡市

- 資料 1-1 を用いて説明。
  - ◆ 個車情報であるため、プライバシーの問題が関わってくる。また、ステークホルダー間でどのように問題に対処してデータを収集し、公開しているのか。
  - ◆ 写真データ以外は問題なく公開できた。しかし、ナビプローブデータは個人情報として扱わなければならない。今後どのように扱っていくかが課題となっている。
  - ◆ 道路保全課が取り組んでいるのが特徴である。また、統計データではなく API のリアルタイム生データを提供しているのが先進的である。今後は、他地域に標準化した規格で横展開していくことが課題である。
  - ◆ データを使われれば使われるほど、従量課金で運用コストがかかってしまう。予算、コストに関してどのように検討したのか。
  - ◆ 5 年間の利用料を公募時に設定していた。サービスの追加時における利用料は、今後の検討課題となっている。
  - ◆ 現在、CSV でダウンロードできる状態だが、オープンデータ化していないのか。また、リアルタイムデータであるが、平常時の更新度はどれくらいか。
  - ◆ 現在は、CC-BY となっていないが、CC-BY として公開できるよう検討を進めている。幹線道路については、毎日更新している。

#### 2. 水戸市

- 資料 1-2 を用いて説明。
  - ◆ 水戸市は課題解決型でオープンデータに取り組んでいる。今後は、ビジネス振興と地域課題解決のプロデューサ、専門家を交えた具体的な取り組みが必要である。
  - ◆ まだ、オープンデータの啓発に留まっている。次年度以降は、オープンデータを活用した地域創生などの具体的な活動に繋げたい。
  - ◆ 茨城県もオープンデータに取り組んでいるが連携はしているのか。ユーザーから見れば、県と市の違いはない。茨城県とも是非連携してほしい。
  - ◆ オープンデータの取組の広域化を現在目標にしている。

#### 3. 株式会社リブセンス

- 資料 1-3 を用いて説明。
  - ◆ オープンデータを整備しようとする地方公共団体等とエンジニアの意見交換が少ないことが課題の根底にある。今後も継続的かつ積極的に意見交換をしていくことが望ましい。
  - ◆ 対話だけでなく、第三者が介在することで解決できる場合もある。
  - ◆ 情報が事業者目線になっていないことが課題である。まとめて公開されていることが望ましい。
  - ◆ CC-BY のデータは、自由に利活用できるため、積極的に利用して欲しい。また、データ形式は、W3C で RDF と SPARQL に統一することを発表している。今後普及していくことが重要である。

- ◆ 制度レベルでは、既に標準化・共通化を図っている。今後浸透していくことが課題となっている。
- ◆ 地盤情報の二次利用ガイドは、実証実験ベースに作成しており、事業者目線で整理している。コメント等あれば適宜頂きたい。

#### 4. 一般社団法人全国地質調査業強化連合会

- 資料 1-4 を用いて説明。
  - ◆ 地盤情報を公開することで資産価値が下がるといったリスクがあるが、高知市はどのように捉えているのか。
  - ◆ 資産価値の低下や、プライバシーの問題等が存在する。しかし、ボーリングデータを公開しても、既に公開されている地盤情報でリスク等は推測可能な状態である。そのため、一部の自治体でボーリングデータを公開しても大きな影響はないと考えている。
  - ◆ 政府標準利用規約を採用していない理由を教えてください。
  - ◆ まだ、データを収集している段階が主要であるため、ライセンスまで検討できていない。
  - ◆ データを公開するか否かの問題は、自治体にも存在する。データの公開については、今後も慎重に検討すべき事項である。

#### 5. ESRI ジャパン

- 資料 1-5 を用いて説明。
  - ◆ ArcGIS Open Data コミュニティサイトのデータは、どのように収集しているか。
  - ◆ 個別の ArcGIS Open Data カタログサイトで公開されたデータを収集している。現時点では、CKAN 単独のサイトのデータは検索できない。

#### 6. オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン

- 資料 1-6 を用いて説明。
  - ◆ オープンデータデイを皆様に是非知ってほしい。
  - ◆ 静岡県内では、4 地域での実施を予定している。また、3 月 11 日に静岡県を中心として「しずおかオープンデータ協議会」セミナーを行う予定である。
  - ◆

#### (2) 勝手表彰

- 資料 2 を用いて説明。

#### (3) その他（次回以降の開催日程について）

- 次回、3 月 11 日（火）13 時 30 分から 15 時 30 分。場所は三菱総合研究所会議室となる。

以上